

## 第5回 第14期小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成27年5月26日（火）午後6時30分～午後8時45分
- 開催場所 小平市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員、山田委員、早田委員、松根委員、佐野委員、田中委員  
川島委員、菊地委員、丹治委員、根津委員、宮崎委員、宮村委員（順不同）
- 傍聴人 なし
- 議題 (1) 第14期の検討課題について  
(2) その他
- 配付資料 (1) 第5回 第14期小平市緑化推進委員会次第  
(2) 緑化推進計画提言 たたき台（案）  
(3) 緑化推進委員会資料

### 会議の要旨

#### 委員長

田中委員から資料（3）をいただいているので簡単に説明をしてもらう。

#### 委員

資料（2）の緑化推進計画提言たたき台（案）の中に具体的に出ているが、その中の一つに取り入れて頂ければということでメモにした。5月17日（日）に、沼さらいがあり、水と緑の会では大沼田用水の親水公園で沼さらいの作業をした。沼さらいの前日に、分岐点を見たら、若干の水たまりが残っており、かなりの数の魚が泳いでいた。完全に水がなくなってしまうと死滅してしまうが、少し水が残っていると生きることができる。自然の重要性を考えると、せっかく生きている魚なので、前日に子どもたちに捕ってもらい、学校等で保護をし、水が流れだしたら再度放流する。微力ではあるが、そういったことを通じて生き物を大事にすることを学んでもらいたい。生き物保護の運動を、沼さらいと連携して展開できたら良いのではないかと思う。現実に行うとなると、コストであるとか、危険性はないのか等あるが、議論を重ねれば、実現不可能ではないと感じている。用水に生きている魚たちを完全に保護することはできなくても、そういう活動を子どもたちが中心になって行うことで、市民にご理解をいただき、一つの運動として展開できるのではないかと思う。

## 委員

今までの沼さらいで魚の保護をすることはあったのか。

## 委員

水が流れている所と流れていない所がある。水が流れている所では少なくとも子どもたちが参加して魚を捕ることはしてなかったと思う。

## 委員

玉川上水の自然環境を守る会の子どもたちに投げかけた所、土日は塾、サッカー、野球などで予定があると断られた。ターゲットにしたい高学年は日程が限られている。上宿小の学区域では、沼さらいの日に、子どもが回りの大人に声をかけられドジョウをもらう。持ち帰ったドジョウを見た親が驚いてしまうという光景が見られる。その中で意欲のある子は、自宅で飼っている子もいる。地域の中で連携をとっていけば可能なのではないかと思う。

## 委員長

沼さらいはしなくてはいけない。その時に生物のリスクをどの様に考えていくかは非常に大きな問題である。

## 委員

この問題は長年頭を悩ませている。沼さらいは、行政が中心でやっている場合と地域の方々が中心でやっている場合とではかなり違ってくる。沼さらいの時に水を止めると水が溜まっている所に魚は集中する。溜まっている所で魚たちを網ですくい上げて本流の玉川上水に流すという作業を半日かけて行ったことがある。

沼さらいの時にどれだけ穴が掘れるかという、沼さらいをするまでは水が流れているので、止めてもらわないと掘れない。用水の生物多様性はどうなっているのかというものも問題である。子供たちを巻き込むというのはとても良い案ではあるが、そこを行政や市民がどう検討していくかが重要である。常に川の流れを管理し生物を管理しないと水が止まった時に困る。止まった水が流れだしたら他の施設にいられている生物を流していくような形をすればよいのではないか。

用水の間に、川の中の生き物をキープし施設にして皆が親しめるものを作るという話があったと思うが、段取りを踏んでいかないと、実現は難しいのではないか。提言書の中でもそういった内容を入れるというのも一つの手である。

## 委員長

用水路を子どもが体験することは重要だが難しい。生物が消滅するリスクをどう減らしていくかを考えていく必要がある。沼さらいは何曜日に行われたのか。

## 委員

毎年5月の第3日曜日に沼さらいを行うことになっている。

## 委員長

全部の各区間で子どもたちにやらせる必要はない。できる所だけでやれば良い。今後は構造的なものも必要かもしれない。そうするとビオトープみたいなものを兼ねてやるのも良いと思う。

## 事務局

市でも、上流の方で水が溜められる場所については水を溜めている。小川橋から彫刻の谷に続く所は、小川橋から小川緑地までは、板を置いてプールにしている。上宿のビオトープも下流側に土嚢を置いて堰を作って水が流れていかないような形をとっている。あじさい公園には観察用の用水路があり、そこには水道水を少し入れて水が枯れないようにしている。新堀用水は、商大橋までは水が流れるような形で水を少し出している。できる範囲で堰を作って、魚が死なないような形をとっている。

## 委員

沼さらいは、市がやっているのか自治体がやっているのか。

## 事務局

用水沿いの自治会長さんとJAの支部長さんに市から依頼をしている。

## 委員

「〇日は魚が取れるよ！」という内容を学校の情報網に流せば子どもたちも喜ぶのではないか。

## 委員

「魚が取れるよ！」と言うと食べてしまったりするかもしれない。魚を捕って保護するという目的を持ってやらないといけない。

## 委員

子どもたちの体験とは話が別である。子どもたちが捕っても保護にはならない。実際に小川町の地区では、局地的ではあるが子どもたちが集まって捕ったりしている。

## 委員

捕ってはだめだということではなく、捕るのも勉強になる。環境的政策と保護政策の線と二つの線はどちらも必要である。それを具体的に整合するかというのが手腕である。用水にせっかく生息している生き物が減っていくのはかわいそうである。それをどうするかというと、子どもたちに生態系を勉強して理解をしてもらうことが重要である。用水の中に入って生き物と戯れるというのは一つの手段である。

## 委員長

社会教育というのはシステムがないと難しい。

## 委員

どんぐりの里親制度というのがあるが、同じように沼さらいが終わるまで少しの間、飼っておいてまた戻すということを学校の方から頼むのはどうか。

## 委員長

あらゆる機会をとらえて子どもたちに用水を体験してほしいということである。生物多様性には一番である。そういう問題を提案していただいてよかった。

## 委員

息子が小平で育ったが、玉川上水や用水で生きものに触れ合っただけで育ったということであらためて感じたようだ。教育という現場で、環境によって子どもたちの生き物との触れあい方が、こんなにもちがうのかというのを感じたようだ。

## 委員長

用水は時代によって変わってくる。川のない小平市にとっては水の中の生物を体験できる貴重な資源である。せっかくある資源なのでどう活用していくかということが大事である。

## 委員

溜めを作っているのは何箇所か。

## 事務局

彫刻の谷緑道、小川橋、あじさい公園観察用水、新堀用水については、小川橋から商大橋については水があるような形にしている。以上4つである。

## 委員

自宅前の用水は流れもあるので沼さらいをするほどではないが、下流の方は泥が溜まったりしている。今は泥を外へ出す形で行っているのか。

## 事務局

新堀用水については掘割が深いので地域の方に沼さらいという形ではお願いをしていない。中央公園や勾配のない所では土が溜まりやすい。こういう所についてはバキュームをつかって、4年、5年に一度くらいさらっている。

## 委員

大沼田用水の沼さらいでは、人力で泥を取った。業者に頼んでもできるが、コストがかかると予見される。なるべく皆さんが参加してボランティアの活動でできればよいと思う。

## 委員長

地域の伝統行事でもある。このままどうやって続けていくかを考える時に、子どもたちに魚を保護してもらう方法や、堰を作って水を溜めてそこで生かすという方法も考えていく必要はある。

## 委員

やり方は一つではない。色々なやり方があると思う。

## 委員長

ヘドロみたいなものが溜まっていると、魚もやられてしまうので沼さらいはやっていただかないといけない。その時に新しい生物多様性に対応するような施設や体制、そして体験などをやることにしていけばよい。子どもたちが全員でなくてもよいから、記憶に残る体験ができるとよい。

## 委員

10年前の話であるが、子どもの通っていた小学校の校長先生が沼さらいに興味を持たれ、子どもたちに体験をさせられないかと考えていて、地域の人にアプローチをしたが実現しなかった。安全確保は教員、保護者が付添うとお話したが、通常入ってはいけない所にも入って作業をするため、子どもを一度入れてしまうと普段も入ってしまう心配があるということであった。受け入れる地域の大人たちに理解をもらうことが必要であると思う。

## 委員長

用水路には、危険な所もあるので万が一のとき責任持てない。次にお話するたたき台にも盛り込んであるので、そういうことの一つとして提案していければと思う。

それでは、緑化推進計画提言 たたき台（案）について説明をする。今日含めて4回委員会があるので、なんとかまとめたと思う。

委員長より、(2) 緑化推進計画提言 たたき台（案）について説明があった。  
また、次のとおり質疑や要望があった。

## 委員長

<実現のための施策> 小平上水・用水・雑木林名所案内マップの創刊の中で、マップ見本例参照としているのでどなたかに作ってほしい。

(仮称) 鷹の台水車公園「水車復活」事業推進の中でも、完成予想図・計画図参照としている。佐野委員に計画図を書いていただいて、千葉委員に絵を書いてもらいたい。これが目玉となる。堰堤の場所と水車の場所が決まっている。これは復元である。文化財的な部分はあるか。

## 委員

復活すれば文化財になるのではないか。

## 委員長

まず佐野委員に計画図を書いて頂いて、それをもとに千葉委員に絵を描いてもらいたいと思う。これは世界とは言わないが、日本レベルになると思う。前回、別の所の資料を出してもらったが堰堤ではなく築樋である。花小金井の方に築樋はある。その水位を守るためのものである。

## 委員長

次に、(仮称) 中島町「雑木林特区」の創設として、雑木林を見に行くのならこんな所が良いというのを有名にするのは悪くないかなと思う。宣伝文句としては国木田独歩に見出された雑木林を体験することのできる地域の林とする。ビジュアルで出せるものがあると良いと思う。

## 委員

子どもたちが林の中で遊べると良い。

## 委員

雑木林というのは草花や虫がたくさん住める場所だと思う。

## 委員

全部ではなく一部で良いから区画をする。管理はどうなっているのか。

## 事務局

簡単な管理は委託を受けているが、実質的に大きい木を切る場合等は東京都である。

## 委員

薬草園の林はほとんど東京都の緑地である。それを特区という形にするとどうか。

## 事務局

歴史環境保全地区という網がかけられている。

## 委員長

その趣旨にそった形で雑木林を管理するような仕組みなら良い。その時に子どもたちの体験（虫取りなど）できる特区を設ける等である。こういう所が小平市の代表的な所になればよい。全体を設けるのではなく一部分でよい。あそこは雑木林もかたまっているし、足湯を通して玉川上水の雑木林にもつながっている、松の木通りもある。あそこを表舞台に出すということである。

## 委員

雑木林の中は生物多様性と非常に関係が深い。それを作って東京都とタイアップで特区にするという方法もある。

## 委員長

小平市の駅ではないが東大和市駅からも近い。事実上小平に隣接している。玉川上水も含めて全体を売っていく。モノレールも玉川上水駅というのがある。交通の便は良い。多摩の雑木林のメッカにしたらどうかという夢のような話もある。

## 委員

小平市の町おこしのことで、外部の方に小平市グリーンロードを中心に見てもらおうとすると、公共交通機関を利用しては全体を案内できない。どうしても車で案内をするしかなくなる。

## 委員長

グリーンロードを周るとなると難しい。21キロを通しで全部利用することはないと思う。分割利用するのが一番まともな考え方だと思う。案内しようとするとうなってしまふ。しかし、利用できる鉄道駅はたくさんある。

## 委員

貸出し自転車というのはいかがでしょうか。

## 委員長

一周をしようというのは小平市民の考えである。小平市民はいつでも、どこからでも利用できるというのでコミタクや貸し自転車を考えるのが良いかもしれない。自転車だと置場の問題がある。お金の問題もあるが、駅に協力をしてもらえればできるかもしれない。緑化推進計画提言たたき台（案）4の市内・近隣市駅からグリーンロードへのアクセスの充実するための一つとして、ブロック内アクセスの充実、コミタク、レンタサイクル等がある。

## 委員

最近、鈴木遺跡の所からでている水が、石神井川の源流だということを知った。

## 事務局

鈴木小学校は、もともとは流していたが、水量が非常に少なく1分間に1リットルから2リットル位しか出ていないので、石神井川には流れていない。私が子どものころ石神井川は滔々と流れていたが、下水道が完備されてからは石神井川の流れはない。

## 委員長

下水に落ちているかもしれない。石神井川の源頭に成りうればよいと思う。

たたき台7の用水通水100パーセント化計画において、鈴木用水を用水にできれば小平独自の水にできる。1回下水道に流れているかどうか調べた方がよいと思う。下水道を作る時にものすごい早さで作った。湧水の流動とかが分断されているかもしれない。小平市は家庭用水と雨水が一緒である。他に水源を求める方法を考えないといけない。

## 委員

（仮称）鷹の台水車公園「水車復活」事業の推進の中で「サブタ」とあるがどういうものか。

## 委員長

板を入れて水位を上げる。堰堤の所の方に流れできるようにする。どんどん板を入れてダムを作る。木で作るダムだと思えばよい。水を堰堤の方に流して水車を回す原動力にするという装置である。

## 委員

グリーンロード市内・隣接市「魅力水・緑・文化施設」のネットワーク化の中の玉川上水の中に「行幸の松」がはいるのではないか。

**委員長**

名木をどう入れ込むかということもある。行幸の松は玉川上水を歩いて見ていると確かに良い。

市民による「おもてなし」計画の推進において、玉川上水に小平糧うどんなどが出来ると良い。例えば、定年退職した方でボランティア的にやって下さる方がいると良いと思うので、市としてはそういう制度を創設すれば良い。地域貢献のボランティアだけでなく、他にも何か考えるとよい。

**委員**

マップの中に名木を入れてもよい。小平市と東京都が両方で管理している街路樹は含ませるか。街路樹に関しては管理が異なるのではないか。

**委員長**

管轄は関係ない。喜平橋の近くの辺りの桜並木がある。

**委員**

小平市の中で巨木の方である。20本程だが、小平市の中では最も街路樹らしい街路樹である。

**委員長**

そういう所を選べばよいと思う。

**委員**

小平市の桜の名所というのもよい。

**委員長**

小平団地のイチョウ並木も中々立派である。

**委員長**

どこに出しても恥ずかしくない街路樹があれば言っていたきたい。次回またご意見があれば出して頂きたい。あと3回あるので、それまでに形にしていきたいと思う。

以上